

国大化学会への期待

国大化学会学生役員 渡邊 弘

平成 23 年度の会誌を作成するにあたって、学生役員という立場から国大化学会に期待することについての記事を寄せることとなりました。米屋前会長のリーダーシップにより、従来の活動から学生支援の拡充へと同窓会のあり方を変えることが決まったということで、学生の本分の傍らではありますが、具体化に向けて協力させて頂いています。国大化学会は、もちろん化学系の同窓会であって、同窓生ネットワークの構築や横浜国立大学にある他の同窓会との連携などといった課題も、同時進行で解決している最中ではあるものの、やはり学生として、どうしても支援策の話題に偏ってしまいます。その点、ご容赦ください。

さて、学生支援策については本誌にて詳細に説明されるとのことなので、細かい内容はそちらに譲るとして、まずは学生に対する金銭的支援についての話題です。とにかく化学系の学生というのは、研究とバイトを両輪で回し続けるには忙しいものです。奨学金や学会参加費などの支援は、この社会的な危機に直面する多くの学生にとって心強いものです。そして同時に、自分が国大化学会の一員であるという意識を持たせる良いきっかけになるはずです。現在、会費納入率の低下や消息不明になってしまう会員の増加といった課題が持ち上がっていますが、学生が国大化学会の恩恵を受けることで、自らが会員であるという自覚が芽生え、卒業後の国大化学会への貢献への理解というものも生まれてくるのではないのでしょうか。

また、OB と学生との交流を推進する企画もますますの発展を遂げようとしています。懇親会や OB



と語る会といった企画から少しずつ学生の要望を集め、行く行くは単位の付く正式な講義を行うことも検討されています。勉強やサークルなどで忙しい学生には、OB と交流するという意味と、それが如何に大切なことであるかという理解までは難しいでしょうが、学生役員として働く中でほかの役員の皆様が真剣に討議を交わす姿を見て、必ず学生のためになる活動だという確信を抱きました。いざ就職という時に、数々のメッセージが大きな助けとなると思います。

このほかにも、ホームカミングデーを利用した同窓会としての活動や、留学生支援といった幅広い活動が推進されていますが、当代の学生役員としては実現に向けてのルール作りやちょっとしたアイデアの吸い上げ、そして次代の学生役員へのバトンの受け渡しなど、細かいながらも大切な仕事を積み重ねて貢献していければと思います。

今後も平井新会長のもと、国大化学会が更なる発展を遂げることを願います。

学生役員という経験を通して

国大化学会学生役員 大野 謙介

国大化学会総会は、学生役員として、初めての仕事であり、やるからには全力を投じて取り組もうと邁進しました。物質工学科に所属していることに誇りがありましたし、4年という学部生最後の年に一つの恩返しと肝に銘じておりました。今回、学部1年生、2年生、3年生にも是非参加して欲しい旨を伝えたところ、熱い学生たちが是非参加したいと私に思いをぶつけてきてくれました。当日も研究室の学生だけでなく、将来に向けて本気で悩みあぐねて

いることをOBの先輩方に相談している2年生の姿をみて、一つの大きな達成感を感じることができました。

「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」私の尊敬する方の御言葉です。今回まさにそれを実感することができました。この経験を活かして、これからの学生生活をより充実したものにしていきたいです。本当にありがとうございました。